

人口動態統計等から見る 岩手県の脳卒中死亡の状況

※ このホームページで用いているデータは、人口動態統計等から得られた数値及びその数値を基に必要な計算を行い算出しています。従って、計算を行うための基となるデータが得られない等の理由で提供データの開始年次に差が生じています。

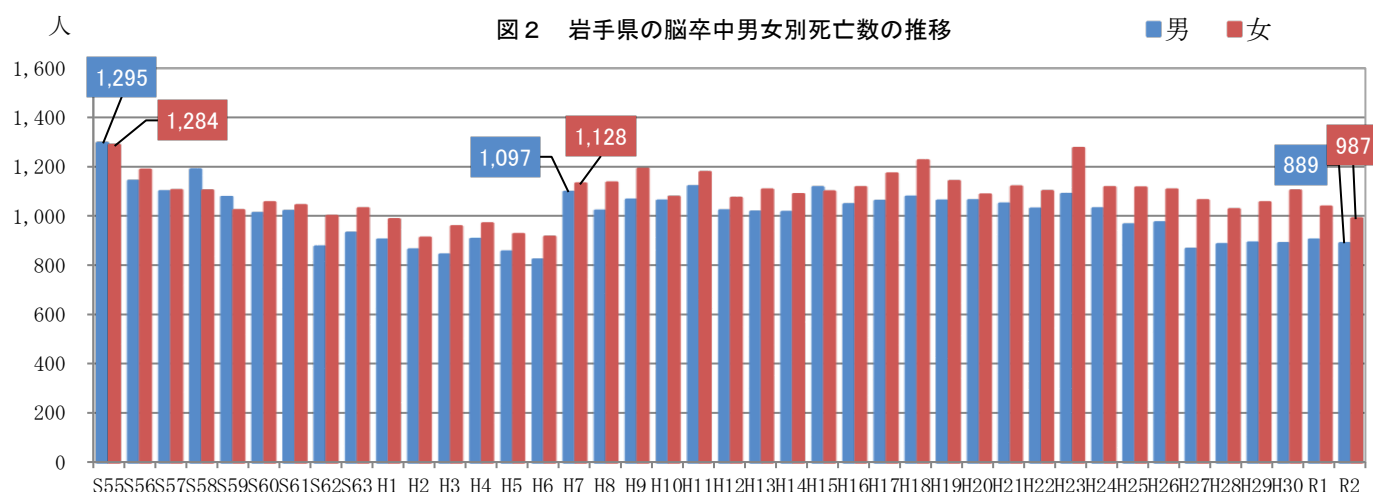
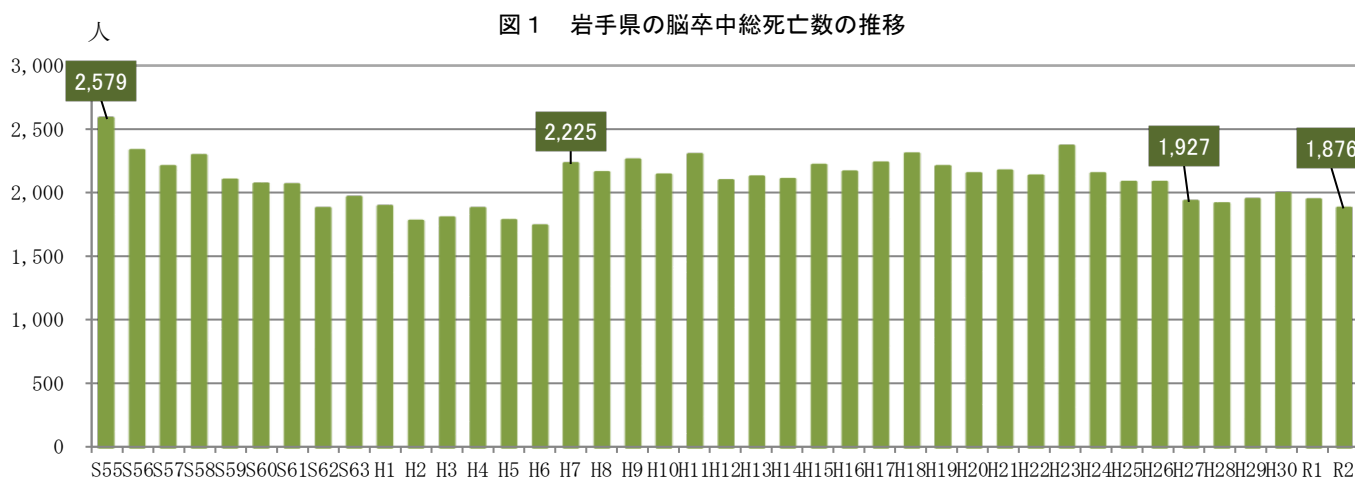
I 脳卒中死亡総数の状況

1 岩手県の脳卒中死亡数の推移

岩手県の脳卒中死亡数は、昭和55年のデータ提供開始年から平成6年にかけて着実に減少していましたが、平成7年にICD-10が適用※1されたことにより、一挙に2,225人に増加することとなりました。以降、**本県の脳卒中死亡者数は2,000人強でほぼ横ばいの状況が続いていましたが、平成27年は21年ぶりに2,000人を下回り、令和2年は1,876人でした（図1参照）。**

男女別には、昭和59年までは男性が女性を上回る年次もありましたが、それ以降は、女性が男性を上回った状況で推移しています（図2参照）。

※1 ICD-10の適用：死亡原因は、WHOが勧告した「国際疾病分類（ICD）」に基づき分類していますが、人口動態統計では、平成7年1月から「第10回修正国際疾病、傷害および死因統計分類（ICD-10）」を適用することとなりました。併せて、死亡診断書の様式改正により、脳卒中を原疾患とする肺炎、気管支肺炎等による死亡も、脳卒中死亡とすることで事例の増加となっています（厚生労働省ホームページ：「第10回修正死因統計分類（ICD-10）と第9回修正死因統計分類（ICD-9）の比較」より要約）。



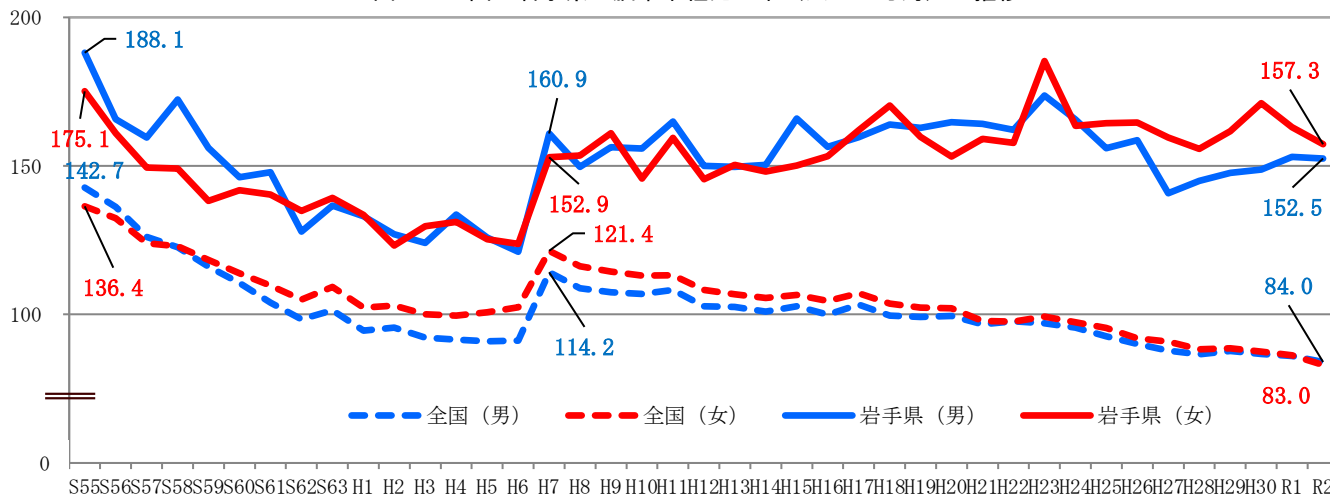
2 全国と岩手県の脳卒中粗死亡率(人口10万対)の推移

脳卒中粗死亡率^{※2}は、全国、岩手県ともに平成6年まで着実に低下していましたが、前述したICD-10適用等に伴い平成7年に計上数が大きく上昇しました。以降、全国は男女ともに緩やかに低下していますが、岩手県の女性は上昇しており、岩手県の男性は女性に比べると近年低下傾向にあります(図3参照)。

※2 粗死亡率：死亡の多寡を比較するための最も基本的な方法。死亡数÷人口×100,000で求め、人口10万人当たり何人の死亡者がいるかという意味で用いられます。

注：全国の粗死亡率は、厚生労働省人口動態調査公表値。岩手県の粗死亡率は、保健福祉年報(人口動態編)の公表値。

図3 全国と岩手県の脳卒中粗死亡率(人口10万対)の推移



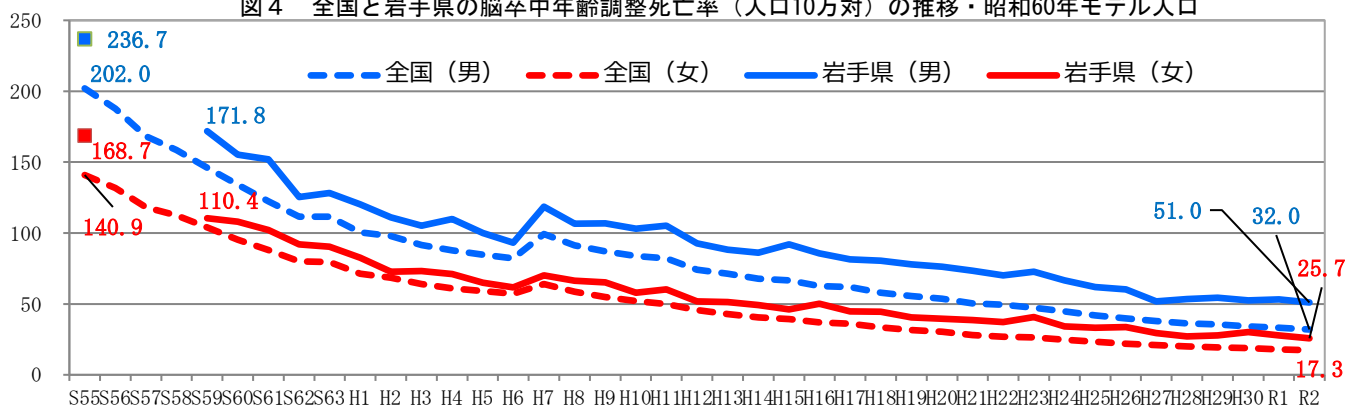
3 全国と岩手県の脳卒中年齢調整死亡率(人口10万対)の推移

年齢調整死亡率^{※3}では、全国、岩手県、男女ともに脳卒中死亡が着実に低下していることがわかります(平成7年のみICD-10適用等により計上数が増加)。粗死亡率では男女は僅差でしたが、年齢調整死亡率では男性の死亡が女性を大きく上回っており、また、全国値と比較すると、男女とも全国より高く推移しています。(図4、5参照)

※3 年齢調整死亡率：年齢構成の異なる地域間で死亡の状況を比較できるように年齢構成を調整した死亡率が年齢調整死亡率(人口10万人当たり)です。年齢調整死亡率は、従来昭和60年モデル人口(国勢調査人口を基に補正した人口)を使用した数値を掲載していましたが、令和4年2月25日に厚生労働省が「年齢調整死亡率の基準人口について」を改訂し、新たに平成27年モデル人口(国勢調査人口を基に補正した人口)を使用することとなりました。この基準人口改訂は、近年の高齢化による人口構成の変化を反映したものとなっています。

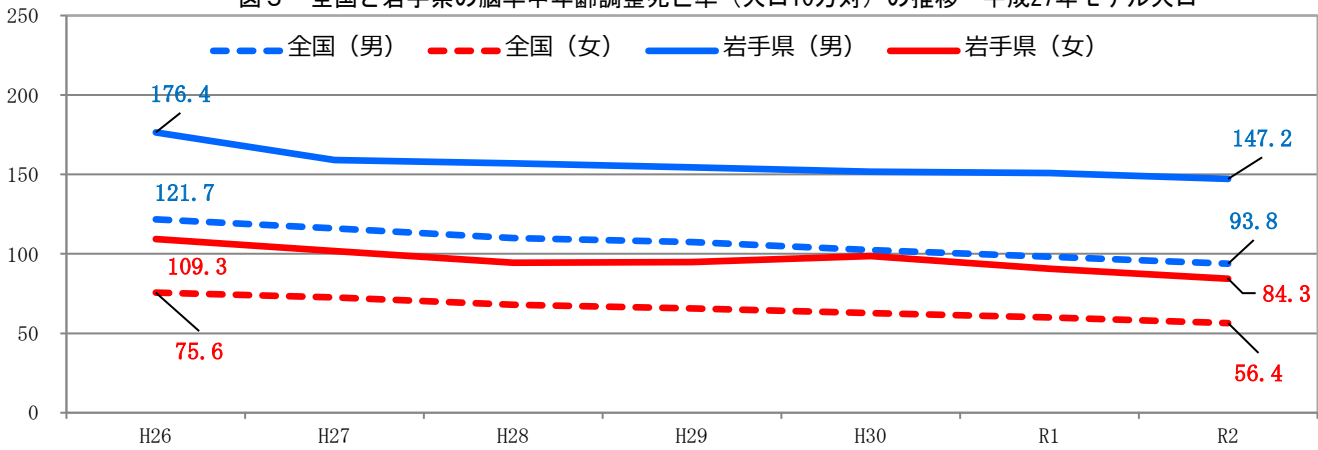
なお、県や市町村の健康増進計画等で使用している年齢調整死亡率は、昭和60年モデル人口を使用した数値を用いており、継続した経年比較や傾向把握が必要であることから、従来に引き続き昭和60年モデル人口を使用した数値を掲載しています。また、新たな県の健康増進計画との比較を考慮し、現行計画の期間(平成26年～令和5年)分について、平成27年モデル人口を使用した数値も掲載しています。

図4 全国と岩手県の脳卒中年齢調整死亡率(人口10万対)の推移・昭和60年モデル人口



注：(図4)昭和55年～令和元年の全国の年齢調整死亡率は厚生労働省公表値であり、令和2年は岩手県環境保健研究センターで算出しました。岩手県の年齢調整死亡率(昭和60年モデル人口)は、S55、S60、H2、H7、H12、H17、H22、H27は厚生労働省公表値を用いていますが、それ以外(令和2年除く)は不詳人口を按分する方法で岩手県環境保健研究センターが算出しました。令和2年は、総務省統計局「令和2年国勢調査に関する不詳補充結果」の人口をもとに岩手県環境保健研究センターが算出しました。

図5 全国と岩手県の脳卒中年齢調整死亡率（人口10万対）の推移・平成27年モデル人口



注：（図5）平成26年から令和2年の全国の年齢調整死亡率（平成27年モデル人口）は岩手県環境保健研究センターで算出、岩手県の年齢調整死亡率（平成27年モデル人口）は、平成26年から令和元年までは不詳人口を按分する方法で岩手県環境保健研究センターが算出しました。令和2年は、総務省統計局「令和2年国勢調査に関する不詳補完結果」の人口をもとに岩手県環境保健研究センターが算出しました。

4 脳卒中年齢調整死亡率（人口10万対）の都道府県順位（ベスト5・ワースト5）

厚生労働省が5年ごとに公表している都道府県別年齢調整死亡率（昭和60年モデル人口、最新は平成27年のもの、5年毎に公開）について、当該年の男女別**ベスト5**と**ワースト5**を表1、2に示します。

男性は、昭和55年、昭和60年、平成2年を除いて常にワースト5に入っており、平成22年はワースト1、平成27年はワースト3となりました。

女性は、昭和45年、50年の連続ワースト1以降、一時はワースト14位となったものの、平成22年にワースト1となり、平成27年もワースト1となっています。

※平成29年度人口動態統計特殊報告「平成27年度都道府県別年齢調整死亡率—主な死因別にみた死亡の状況—」より

表1 【男性】昭和60年モデル人口

ベスト5					
年次	1	2	3	4	5
S35	香川	徳島	愛媛	広島	三重
S40	香川	京都	三重	広島	岐阜
S45	香川	京都	兵庫	大阪	佐賀
S50	沖縄	香川	京都	広島	大阪
S55	沖縄	香川	京都	熊本	広島
S60	沖縄	香川	大阪	愛媛	熊本
H2	沖縄	大阪	北海道	熊本	京都
H7	沖縄	熊本	奈良	大阪	香川
H12	福井	奈良	滋賀	大阪	沖縄
H17	和歌山	奈良	沖縄	滋賀	香川
H22	香川	奈良	京都	滋賀	福井
H27	滋賀	奈良	和歌山	京都	大阪

岩手県 東北5県

ワースト5						岩手の順位
年次	1	2	3	4	5	
S35	秋田	青森	岩手	山形	福島	
S40	秋田	岩手	福島	山形	青森	
S45	秋田	岩手	福島	宮城	栃木	
S50	秋田	岩手	栃木	福島	新潟	
S55	栃木	秋田	山形	福島	茨城	9位
S60	栃木	秋田	青森	福島	宮城	10位
H2	栃木	秋田	茨城	宮城	青森	11位
H7	栃木	青森	宮城	秋田	岩手	
H12	青森	岩手	秋田	栃木	長野	
H17	青森	岩手	栃木	秋田	福島	
H22	岩手	青森	秋田	栃木	宮城	
H27	青森	秋田	岩手	栃木	新潟	

表2 【女性】昭和60年モデル人口

ベスト5					
年次	1	2	3	4	5
S35	香川	大阪	愛媛	広島	京都
S40	大阪	香川	京都	愛媛	広島
S45	香川	兵庫	京都	大阪	福岡
S50	沖縄	香川	兵庫	佐賀	福岡
S55	沖縄	香川	熊本	愛媛	福岡
S60	沖縄	香川	熊本	大阪	徳島
H2	沖縄	香川	大阪	山口	熊本
H7	沖縄	熊本	香川	徳島	山梨
H12	沖縄	福井	島根	大阪	石川
H17	沖縄	奈良	島根	福岡	佐賀
H22	香川	奈良	大阪	広島	沖縄
H27	大阪	滋賀	沖縄	福岡	奈良

岩手県 東北5県

ワースト5						岩手の順位
年次	1	2	3	4	5	
S35	秋田	岩手	山形	福島	長野	
S40	秋田	岩手	長野	福島	新潟	
S45	岩手	秋田	福島	宮城	山形	
S50	岩手	秋田	福島	宮城	長野	
S55	栃木	秋田	宮城	福島	長野	8位
S60	栃木	宮城	秋田	茨城	福島	12位
H2	栃木	秋田	宮城	山形	長野	14位
H7	宮城	栃木	茨城	秋田	福島	12位
H12	秋田	栃木	茨城	福島	群馬	8位
H17	栃木	青森	岩手	茨城	群馬	
H22	岩手	栃木	青森	宮城	福島	
H27	岩手	栃木	青森	鹿児島	山形	

5 脳卒中年齢調整死亡率（人口10万対）の保健所別比較（高率順）

最新年（令和2年）の脳卒中年齢調整死亡率（昭和60年モデル人口）を、所管する保健所別に算出し、高率順に図6、7に示します。

男性では、釜石保健所が最も高い68.3（人口10万対）で、続く久慈保健所は59.4となっています。最も低いのが、宮古保健所の42.0で、釜石保健所とは26.3の差となっています。

女性は、釜石保健所が47.6と最も高く、最も低い宮古保健所の16.4とは31.2の差となっています。

図6 脳卒中年齢調整死亡率の保健所比較 R2 男（高率順）・昭和60年モデル人口

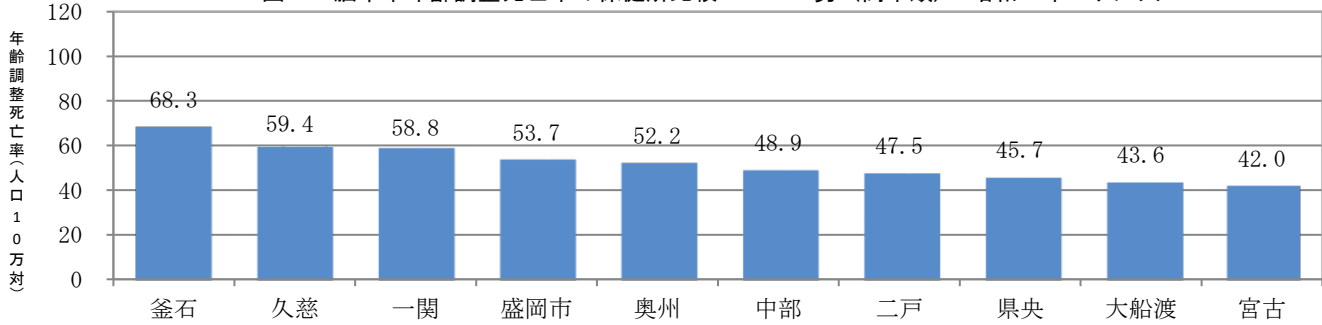
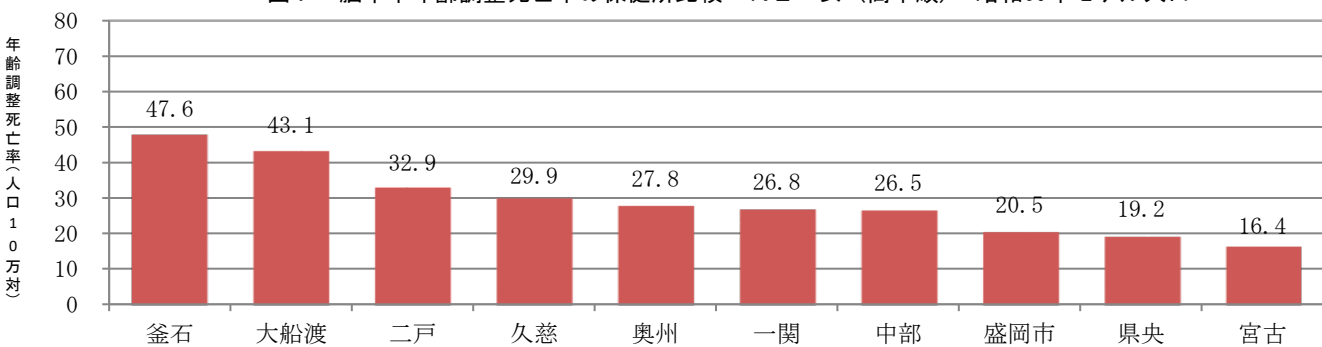


図7 脳卒中年齢調整死亡率の保健所比較 R2 女（高率順）・昭和60年モデル人口



最新年（令和2年）の脳卒中年齢調整死亡率（平成27年モデル人口）を、所管する保健所別に算出し、高率順に図8、9に示します。

男性では、釜石保健所が最も高い199.6（人口10万対）で、続く久慈保健所は195.2となっています。最も低いのが、宮古保健所の120.4で、釜石保健所とは79.2の差となっています。

女性は、大船渡保健所が128.8と最も高く、最も低い宮古保健所の65.8とは63.0の差となっています。

図8 脳卒中年齢調整死亡率の保健所比較 R2 男（高率順）・平成27年モデル人口

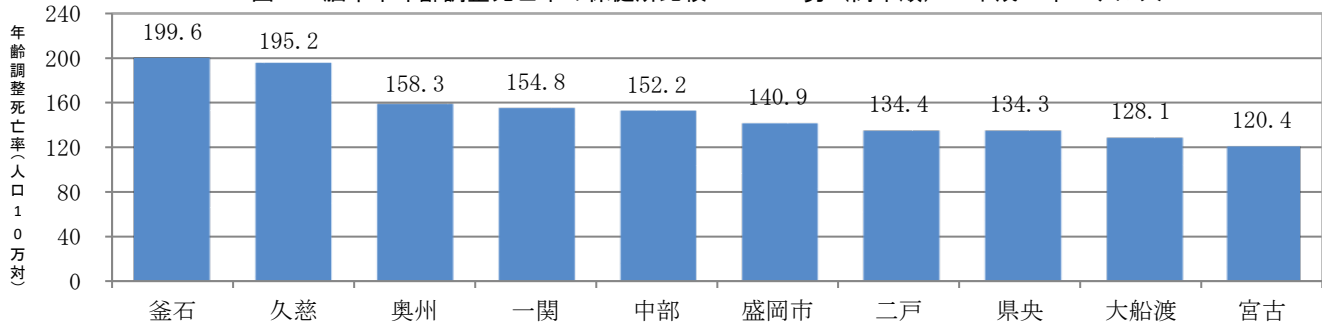
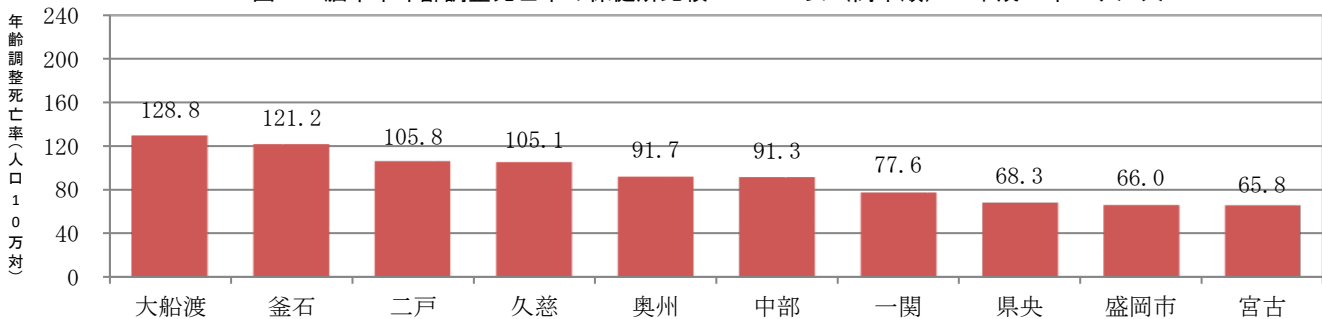


図9 脳卒中年齢調整死亡率の保健所比較 R2 女（高率順）・平成27年モデル人口



注：（図6～9）保健所別年齢調整死亡率は、不詳人口を除く方法で岩手県環境保健研究センターが算出しました。

6 脳卒中標準化死亡比による岩手県及び保健所別の全国との比較

人口規模が小さい市町村等においては、国や県（比較したい地域）と当該市町村を比較する標準化死亡比（SMR）※4という手法が用いられます。

厚生労働省では、人口動態保健所・市区町村別統計（特殊報告）により、国を100とした場合の各地域の標準化死亡比を公表しています（以下、このデータを用いた場合には「H25-29標準化死亡比」と表記します。なお、平成25～29年のデータが最新です）。5年分の数値を用いることで、「たまたま死亡率が高かった年」等の突出したデータが平均化され、5年間の平均的な地域傾向として捉えることができます。

※4 標準化死亡比（SMR）：比較したい地域（国や県等）の年齢階級毎の死亡率を比較される側の地域（市町村等）の年齢階級人口にかけあわせ死者数の合計を求めます。この数と比較される側の地域の実死者数を百分率で比較します。比較したい地域の死亡を100とした場合の比較される側の地域の死亡の多寡を判断します。

岩手県及び各保健所の脳卒中のH25-29標準化死亡比について、男女別に高順で図10、11に示します。

男性では、久慈保健所・釜石保健所が高く、全国の1.6倍となっています。次いで、二戸保健所、県央保健所、中部保健所と続きます。大船渡保健所は県内でも最も低く、全国値に近い地域となっています。いずれの地域も全国よりも高い状況となっています。

女性では、釜石保健所は最も高く、全国の1.5倍強となっています。次いで、中部保健所、宮古保健所となっており、男性同様、大船渡保健所は最も低い状況です。女性も、いずれの地域でも全国より高い状況となっています。

図10 脳卒中H25-29標準化死亡比による岩手県及び保健所別の全国との比較 男（高順）

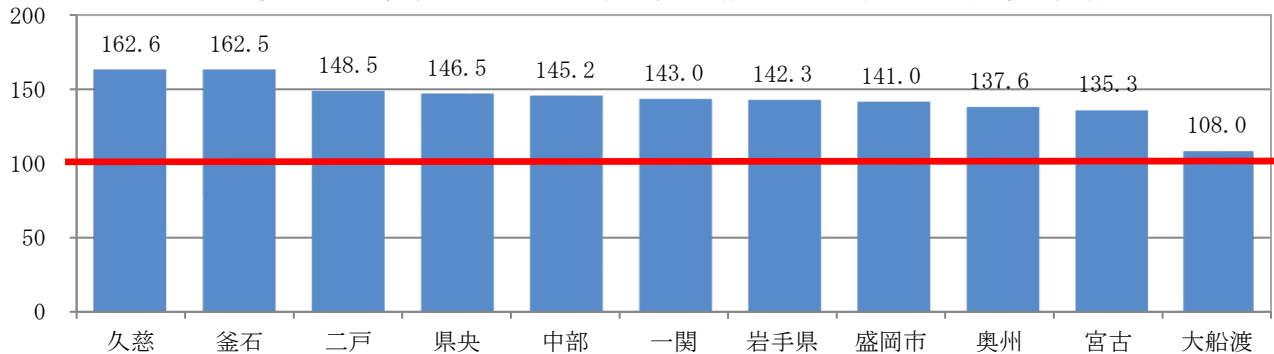
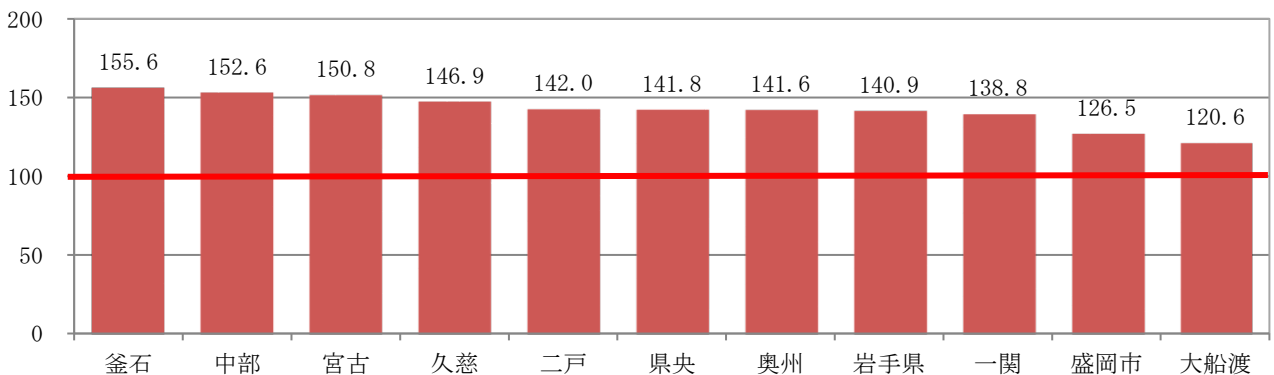


図11 脳卒中H25-29標準化死亡比による岩手県及び保健所別の全国との比較 女（高順）



Ⅱ 脳卒中の病類別死亡の状況

1 全国と岩手県の脳卒中の病類別年齢調整死亡率（人口10万対）の推移

脳卒中は、「脳梗塞」、「脳出血」、「くも膜下出血」、「その他」に大別されますが、その他を除く主要3病類の年齢調整死亡率の推移について、男女別に図12、13（昭和60年モデル人口）、図14、15（平成27年モデル人口）に示します。全国では、男女ともに「脳梗塞」が低下し、「脳出血」及び「くも膜下出血」も緩やかな低下傾向となっています。岩手県も、それぞれ長期的には低下傾向にはありますが、前年より上昇している場合もあります。男女ともに、ほとんどの年次、病類別においても、岩手県は、全国の死亡率を上回る状況で推移していることから、今後の動向に注意する必要があります。

図12 全国と岩手県の脳卒中の3病類別年齢調整死亡率（人口10万対）の推移 男・昭和60年モデル人口

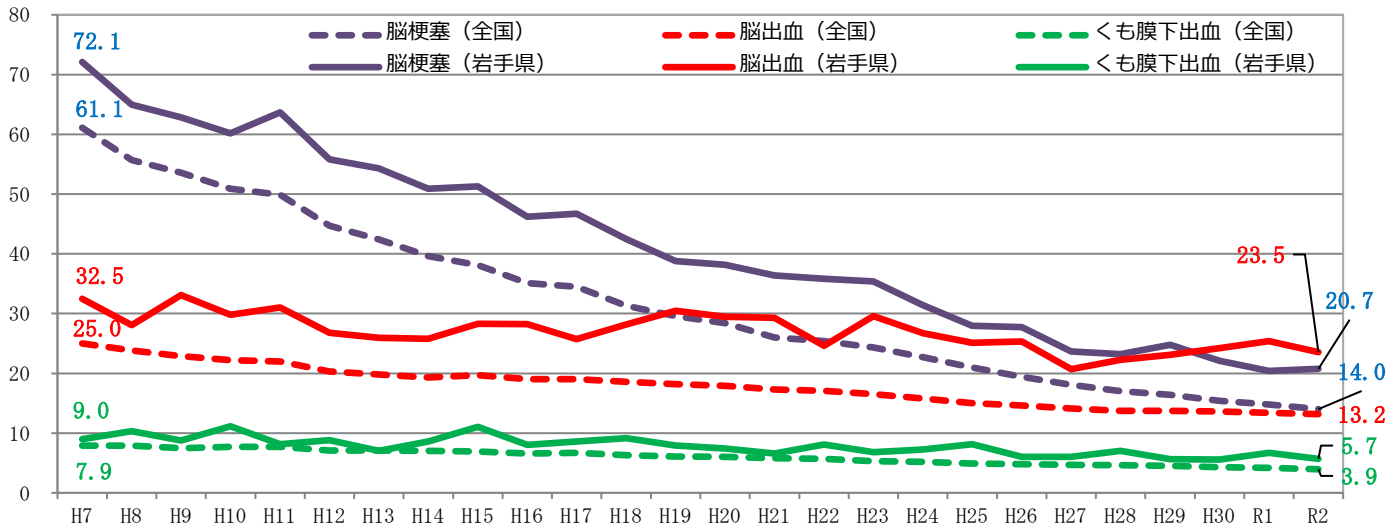
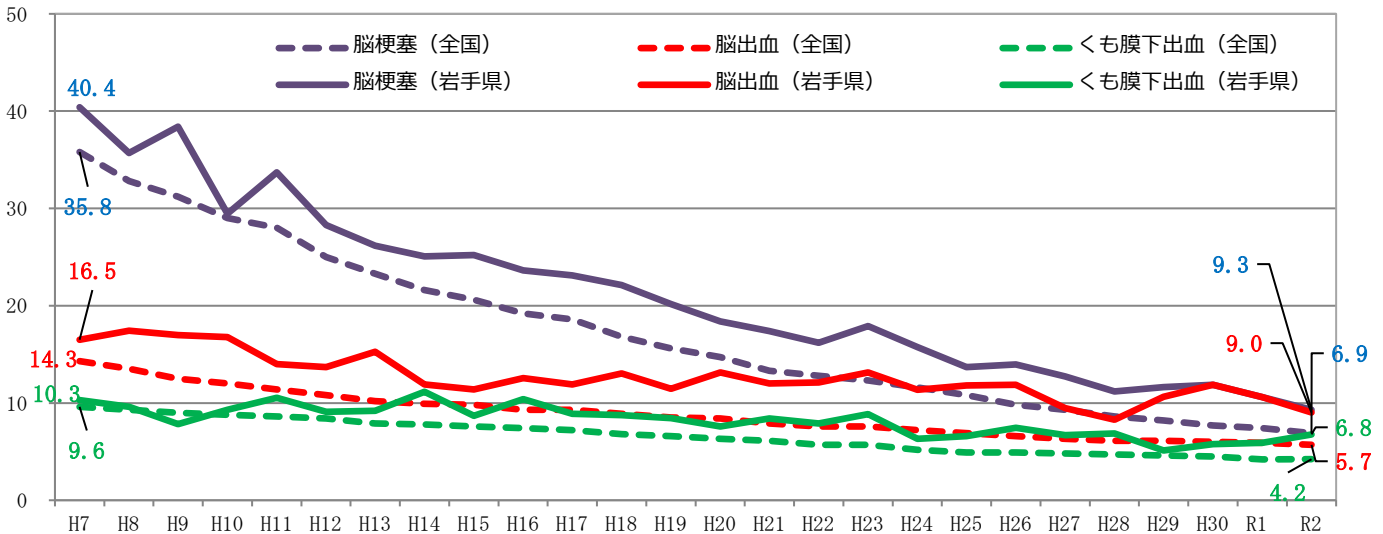


図13 全国と岩手県の脳卒中の3病類別年齢調整死亡率（人口10万対）の推移 女・昭和60年モデル人口



注：（図12、13）平成7年～令和元年の全国の年齢調整死亡率（昭和60年モデル人口）は厚生労働省公表値であり、令和2年は岩手県環境保健研究センターで算出しました。岩手県の年齢調整死亡率は、H7、H12、H17、H22、H27（昭和60年モデル人口）は厚生労働省公表値。それ以外（令和2年除く）は不詳人口を按分する方法で岩手県環境保健研究センターが算出しました。令和2年は、総務省統計局「令和2年国勢調査に関する不詳補完結果」の人口をもとに岩手県環境保健研究センターが算出しました。

図14 全国と岩手県の脳卒中の3病類別年齢調整死亡率（人口10万対）の推移 男・平成27年モデル人口

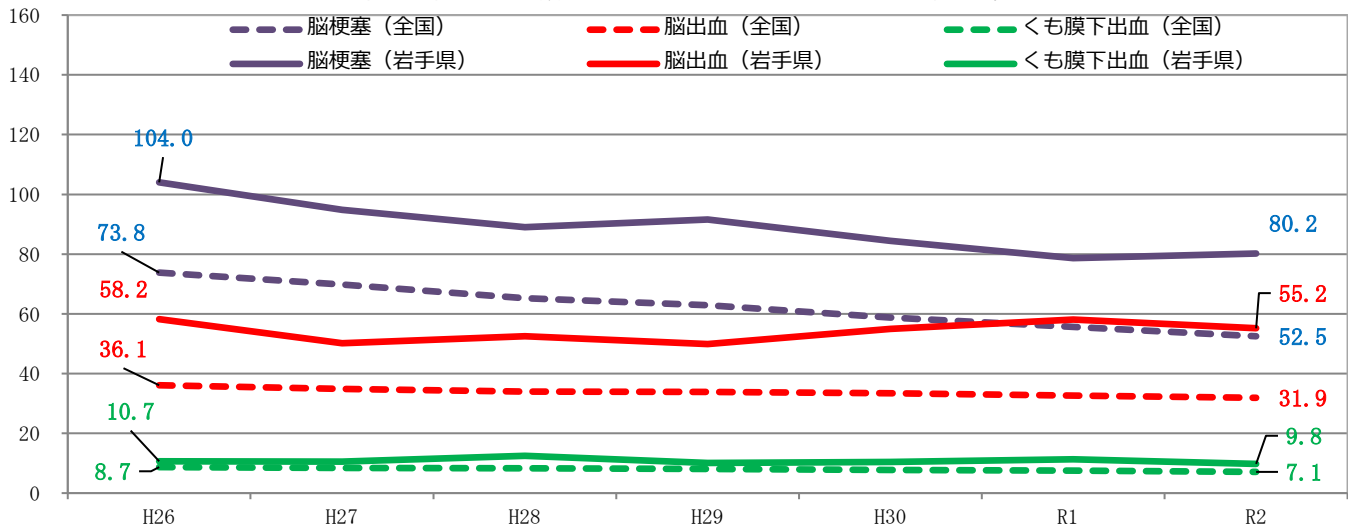
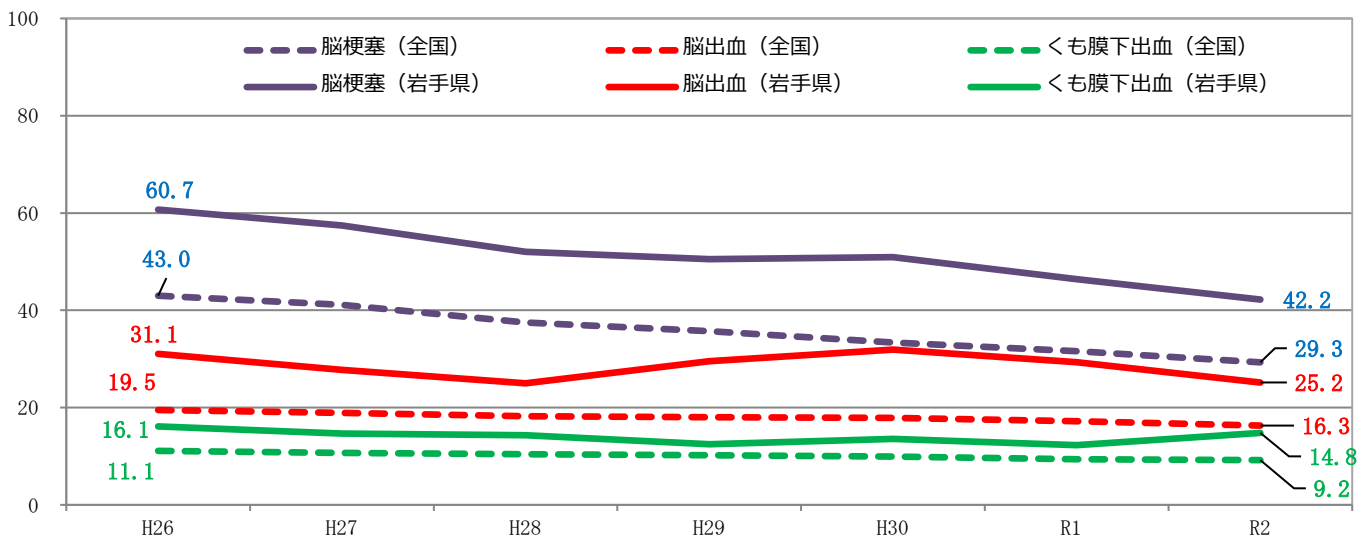


図15 全国と岩手県の脳卒中の3病類別年齢調整死亡率（人口10万対）の推移 女・平成27年モデル人口



注：（図14、15）平成26年から令和2年の全国の年齢調整死亡率（平成27年モデル人口）は岩手県環境保健研究センターで算出、岩手県の年齢調整死亡率（平成27年モデル人口）は、平成26年から令和元年までは不詳人口を按分する方法で岩手県環境保健研究センターが算出しました。令和2年は、総務省統計局「令和2年国勢調査に関する不詳補完結果」の人口をもとに岩手県環境保健研究センターが算出しました。

2 脳梗塞標準化死亡比による岩手県及び保健所別の全国との比較

脳梗塞について、岩手県及び各保健所のH25-29標準化死亡比を男女別に高順で図16、17に示します。

男性では、中部保健所が最も高く、全国の1.5倍強となっています。次いで、久慈保健所、釜石保健所となっており、大船渡保健所は最も低い状況です。いずれの地域も全国よりも高い状況となっています。

女性は、中部保健所が最も高く、全国の1.6倍となっています。次いで、奥州保健所、久慈保健所となっており、盛岡市保健所が最も低い状況です。女性も、いずれの地域でも全国より高い状況となっています。

図16 脳梗塞H25-29標準化死亡比による岩手県及び保健所別の全国との比較 男（高順）

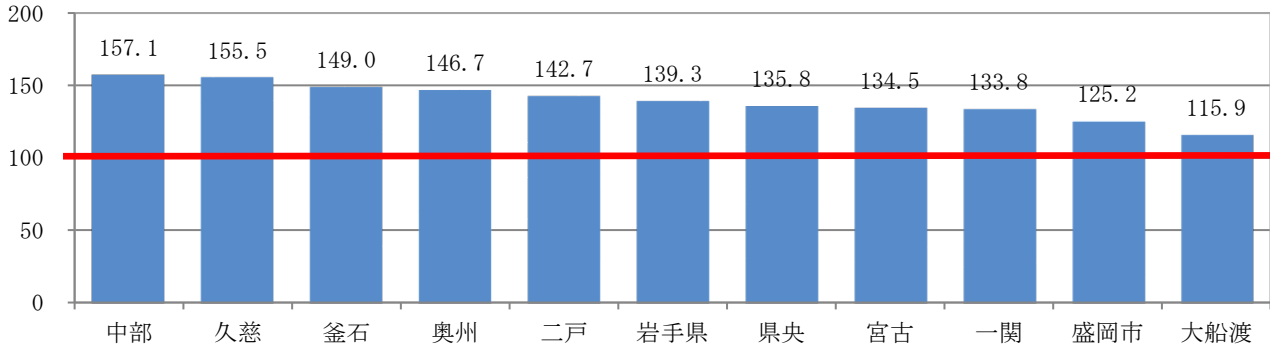
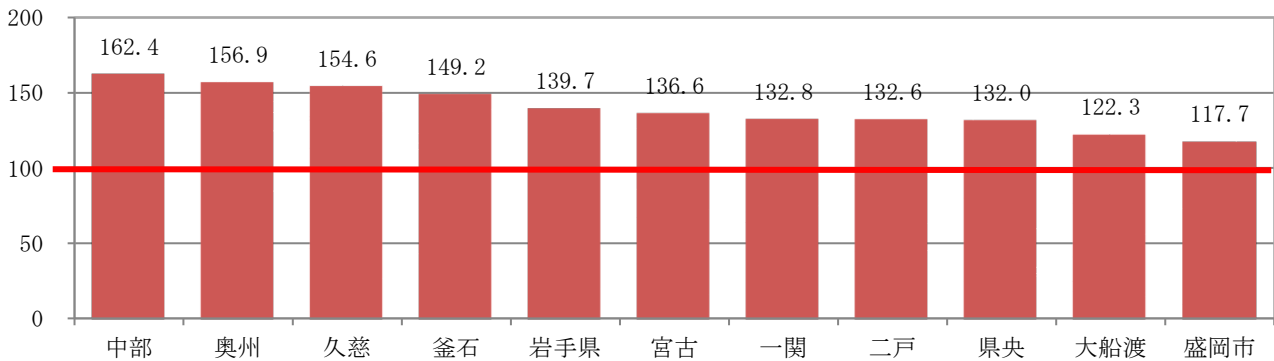


図17 脳梗塞H25-29標準化死亡比による岩手県及び保健所別の全国との比較 女（高順）



3 脳出血標準化死亡比による岩手県及び保健所別の全国との比較

脳出血について、岩手県及び各保健所のH25-29標準化死亡比を男女別に高順で図18、19に示します。

男性では、釜石保健所が最も高く、全国の1.9倍強となっています。次いで、盛岡市保健所、県央保健所となっており、大船渡保健所が最も低い状況です。いずれの地域も全国よりも高い状況となっています。

女性は、釜石保健所が最も高く、全国の約1.9倍となっています。次いで、宮古保健所、一関保健所となっており、大船渡保健所が最も低い状況です。女性も、いずれの地域でも全国より高い状況となっています。

図18 脳出血H25-29標準化死亡比による岩手県及び保健所別の全国との比較 男（高順）

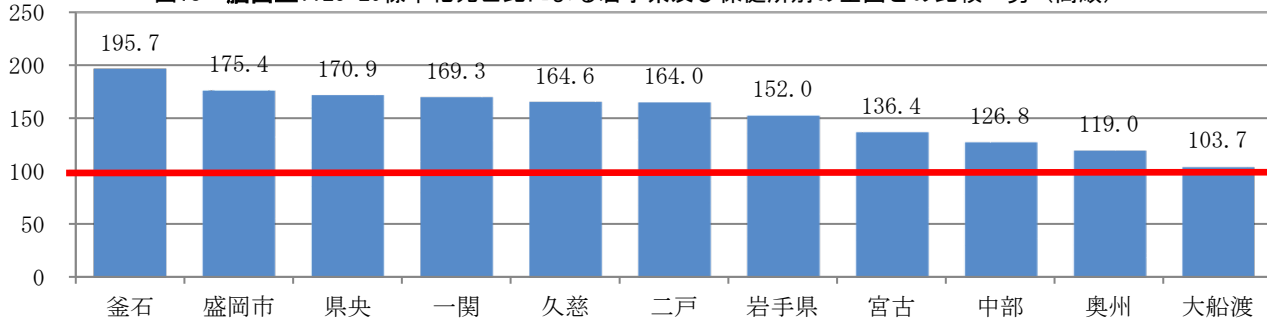
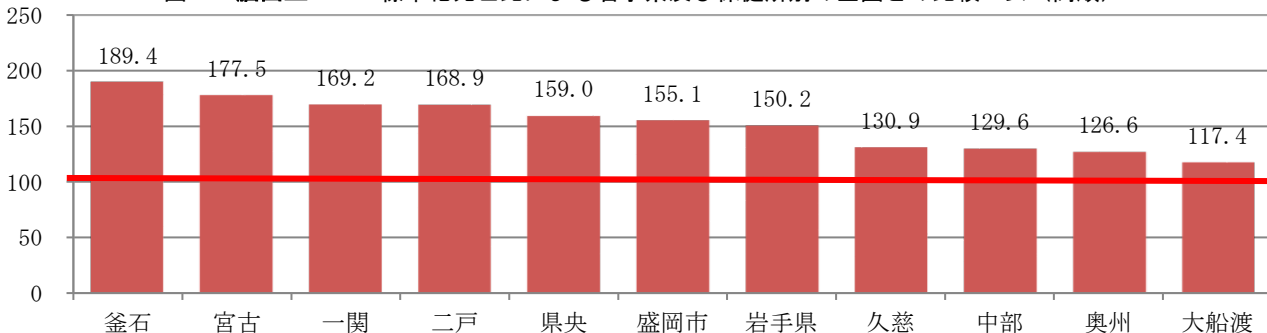


図19 脳出血H25-29標準化死亡比による岩手県及び保健所別の全国との比較 女（高順）



Ⅲ 脳卒中のその他の特色

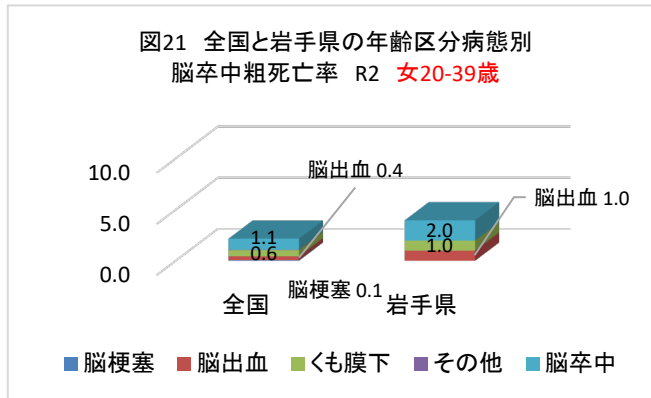
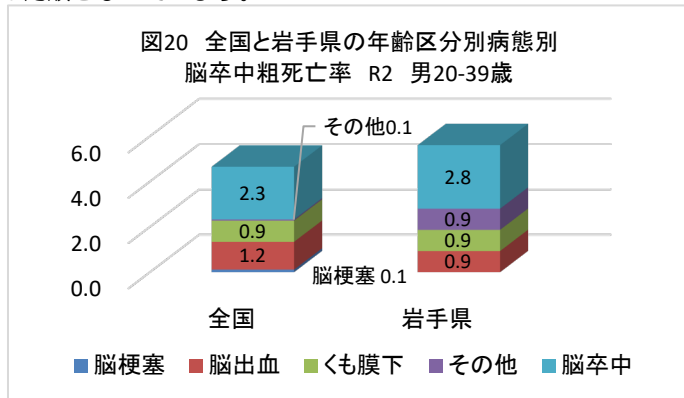
1 全国と岩手県の年齢区分別病類別脳卒中粗死亡率（人口10万対）

脳卒中は、総数では「脳梗塞」が最も高く、次いで「脳出血」、「くも膜下出血」の順となっています。しかし、年齢区分によって、どの病気が多いかが異なります。そこで、最新年（令和2年）の全国と岩手県の病類別の粗死亡率を、年齢区分別男女別に示しました（図20～25）。

なお、20歳未満は脳卒中による死亡が極めて少ないことから、年齢区分は「20～39歳」、「40～64歳」、「65歳以上」の3区分としています。

「20～39歳」の男性は、全国は「脳出血」、「くも膜下出血」、「脳梗塞」の順となっており、岩手県は「脳出血」、「くも膜下出血」が同順となっています。病類別の値は、岩手県が全国より高い死亡率となっています。

女性は、全国が「くも膜下出血」、「脳出血」、「脳梗塞」の順であるのに対し、岩手県は「脳出血」と「くも膜下出血」が同順となっています。

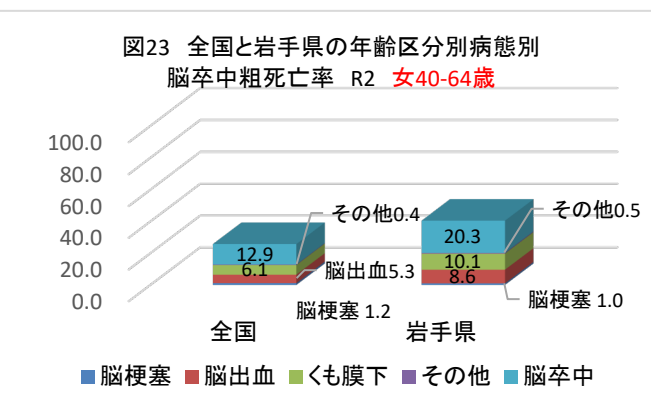
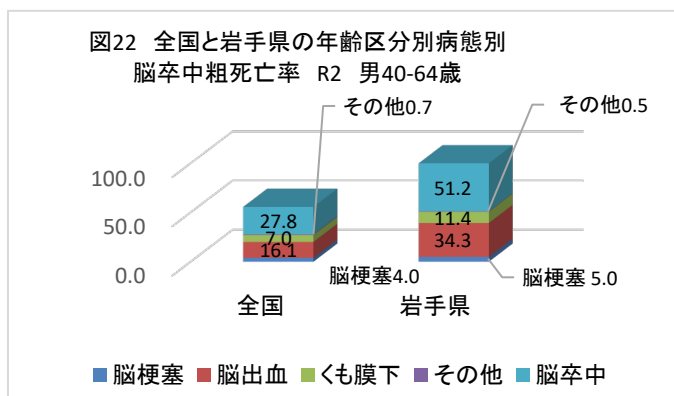


※各項目の数値は四捨五入しているため、脳卒中の値と合計が一致しない場合があります。

「40～64歳」の男性は、全国は「脳出血」、「くも膜下出血」、「脳梗塞」、岩手県も全国と同様に「脳出血」、「くも膜下出血」、「脳梗塞」の順となっています。岩手県の「脳出血」の値は、全国のおよそ2倍となっています。

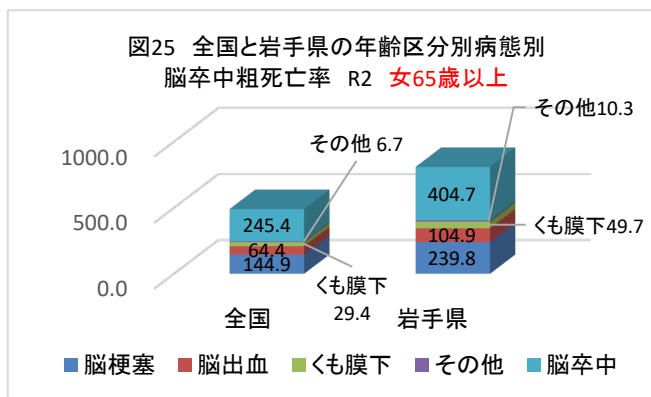
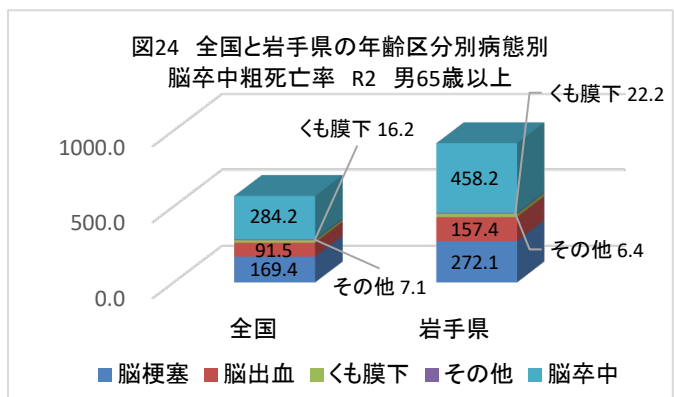
女性は、全国が「くも膜下出血」、「脳出血」、「脳梗塞」の順となっていますが、岩手県は「くも膜下」、「脳出血」、「脳梗塞」の順となっています。なお、岩手県の「脳出血」の値は全国のおよそ1.6倍です。

総数は、男女ともに、全国のおよそ2倍に近い死亡率となっています。



※各項目の数値は四捨五入しているため、脳卒中の値と合計が一致しない場合があります。

「65歳以上」になると、全国、岩手県、男女ともに、脳梗塞、脳出血、くも膜下出血の順となっています。岩手県はいずれも全国をはるかに上回っており、総数もかなり高い状況となっています。



※各項目の数値は四捨五入しているため、脳卒中の値と合計が一致しない場合があります。

2 全国と岩手県の脳出血の年齢階級別粗死亡率（人口10万対）比較

脳出血粗死亡率について、全国と岩手県を年齢階級別に経年比較しました。

特に岩手県において死亡率が高い、40代（図26）、50代（図27）、60代（図28）を示しています。

岩手県の若い世代の脳出血死亡率が高いことは前述のとおりですが、ここに示した年代を見ると、全国は、男女とも緩やかな低下傾向にあります。岩手県の男性は、全国よりおよそ2倍の死亡率で推移しています。岩手県の女性も概ね全国より高い死亡率で推移しており、特に平成30年の40代女性は顕著な上昇を示しています。脳出血の最大の危険因子は高血圧であり、予防には血圧管理がとても重要です。

図26 全国と岩手県の脳出血粗死亡率（人口10万対）の比較 40代

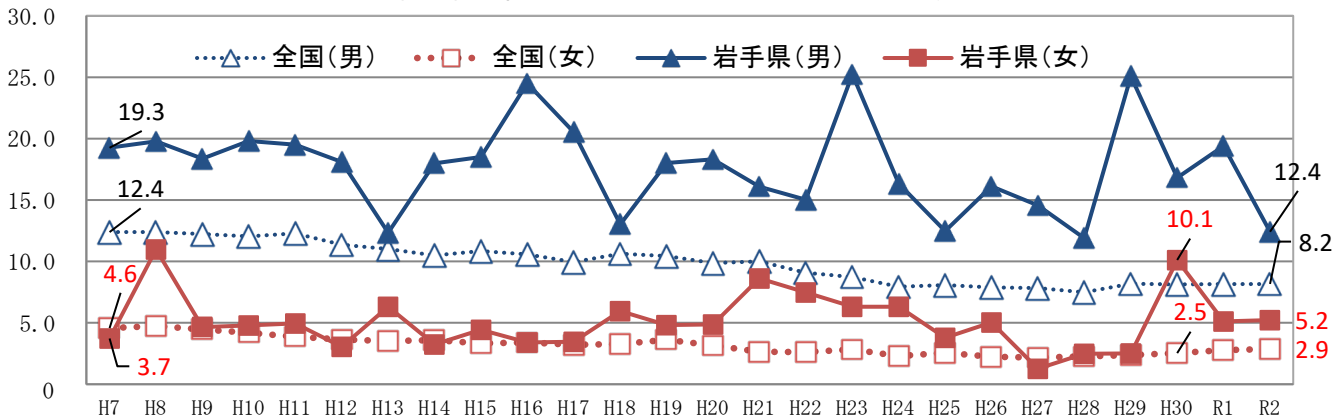


図27 全国と岩手県の脳出血粗死亡率（人口10万対）の比較 50代

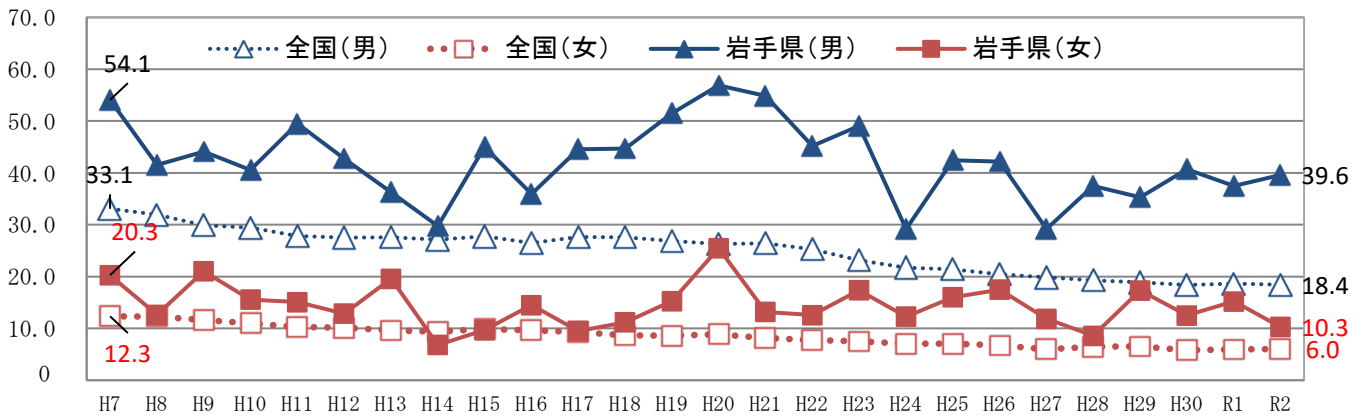
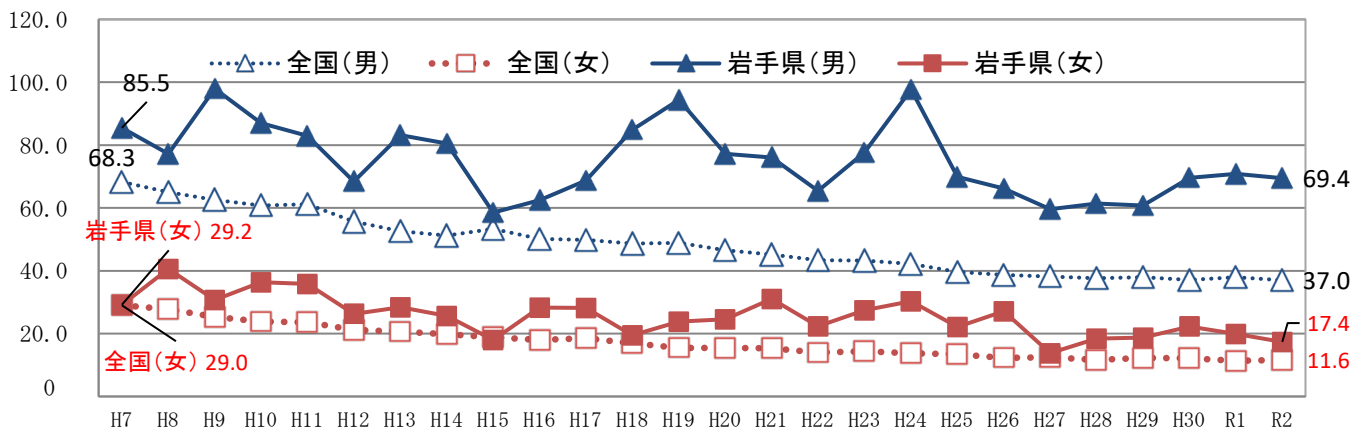


図28 全国と岩手県の脳出血粗死亡率（人口10万対）の比較 60代



3 岩手県の脳卒中の病類別月別死亡数（H28-R2平均）

岩手県の脳卒中病類別月別のH28～R2年の平均死亡数の変化を図29に示します。

脳梗塞と脳出血による死亡者は、冬季（12月～3月）にかけてやや多く、夏季（6月～8月）にやや少ない状況となっています。一方、くも膜下出血は、秋季から冬季（10月～3月）にかけてやや多く、夏季（6月～8月）にやや少ない状況となっています。

